




No title available**Publication number:** JP49035630 (A)**Publication date:** 1974-04-02**Inventor(s):****Applicant(s):****Classification:****- international:** *B65B7/28; D01G9/00; B65B7/28; D01G9/00; (IPC1-7): D01G9/04***- European:** B65B7/28B; B65B7/28F; D01G9/00**Application number:** JP19720130376 19721228**Priority number(s):** FR19720023096 19720620**Also published as:** NL7217815 (A) FR2189544 (A1) GB1368350 (A) BE793479 (A1) IT972135 (B)

more >>

Abstract not available for **JP 49035630 (A)**

Data supplied from the **esp@cenet** database — Worldwide



優先権主張

フランス国 97 年 6 月 20 日 特許願第 7 2 2 3 0 9 6 号)

特 許 願

昭和 4 7 年 1 2 月 2 8 日

特許庁長官 三宅 幸夫 殿

1. 発明の名称 織物繊維またはその類似物の
開繊および個別分離装置

2. 発明者

特許出願人と同じ

3. 特許出願人

住所 フランス国バ. ラン県
マルクコルシエム (無番地)

氏名 ベルナール・ルドロフ

(国籍) フランス国

4. 代理人 〒168 電話: 311-9508

住所 東京都杉並区和泉 4 丁目 4 番 2 号

氏名 弁理士 (5871) 山田 健 吉

5. 添附書類の目録

- | | |
|------------|-----|
| (1) 明細書 | / 通 |
| (2) 図 面 | / 通 |
| (3) 願書副本 | / 通 |
| (4) 委任状 | / 通 |
| (5) 優先権証明書 | / 通 |



47 130376

明 細 書

1. 発明の名称 織物繊維またはその類似物の
開繊および個別分離装置

2. 特許請求の範囲

両端において支持固定された針金または線条
および該針金または線条に振動を与える駆動機
構より成ることを特徴とする織物繊維またはそ
の類似物の開繊および個別分離装置。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、総ての種類の織物繊維またはその
類似物の漸進的開繊および個別分離を遂行する
ための手段および装置に関するものである。

従来周知の多くの装置の中には、慣用の紡績
機械において連続的に機械的紡績を遂行するた
めに、繊維の十分な分離が得られるようなもの
があった。また、その他に、原料繊維の包装の
分解粉碎に限定された装置または繊維除去機
の形態を有するものが使用され、これらの装置に
おいては、該包装内の不純物等の異物を除去清

① 日本国特許庁

公開特許公報

① 特開昭 49 35630

④ 公開日 昭 49. (1974) 4. 2

② 特願昭 47-130376

② 出願日 昭 47. (1972) 12. 28

審査請求 未請求 (全 3 頁)

庁内整理番号

⑤ 日本分類

6262 31-
6262 31-

43 A42/
43 A1-

掃すると同時に、原料繊維は、その開繊中に多少
なりとも激しい衝撃的作用を受け、これにより繊
維は極めて強い張力または過度の打撃の影響で、
損傷され且つ破壊される。

また他方において、梳整操作中においてさえも、
繊維の所望の個別分離は、慣用の手段および装置
により得られないことが確認されている。

これらの欠点を軽減するために、本発明は、如
何にもろい繊維であっても、その形態を保存しつ
つ、該繊維の個別分離を完全に遂行し得る装置を
提供することを目的としている。

本発明に基づき、原料繊維塊の開繊および繊維
の個別分離は、高い周波数の振動に対して少しも
疲れを生ずることなく堪え得る金属、プラスチッ
ク物質、ゴムおよびその他の物質で作られた針金
または線条を振動せしめることにより漸進的に得
られる。

周知の開繊装置においては、繊維はその分離操
作中に一体に保持されているが、本発明の装置に
より操作される圧縮包装された繊維塊は、振動す

る線条と接触せしめられ、これにより該塊は、ゆすぶられて漸進的に分解され、遂に繊維の全体的分離が行なわれ、次いで個別に取り去られる。この開繊は、繊維の破壊または変質、疲れを生ぜしめない。それどころか、高周波振動の影響で、繊維は、圧縮梱包される前の原状態を取り戻すことができる。

本発明のお蔭で、繊維の開繊と同時に、原料繊維塊内に含まれている種子の殻、粒、ごみ等の総ての不純物がそれ自体の重量により除去されるので、該繊維の完全な清浄が得られる。

次に本発明が、何等限定的意味を持たずに示されたその一実施例の添付図面を参照して、詳細に説明されるであろう。

本発明による繊維の開繊および個別分離装置は、第1および2図に示す如く、その両端において支持部2および3に定着された針金または線条1と、先端にローラ5を有するカム4'を具備する車輪4またはその他の適当な部材とにより主として構成されている。

既述により明らかな如く、本発明の装置は、その複数の実施態様のものが、水平にまたは垂直に、または任意に傾斜されて配置された単一枠組上に組立てられ得る特徴がある。

勿論、本発明は、上述された実施例に限定されることなく、その発明要旨を逸脱しない範囲内において、多くの変形実施態様を包含し得るものである。かくて、例えば、繊維の開繊および個別分離を惹起せしめる針金または線条1は、これに振動を与え得る他の任意の手段により作動される。

本発明の装置は、木綿、羊毛、黄麻または梳整一紡績法等の紡績において使用される切断されたあらゆる合成または人造の繊維類の製糸の分野における総てのタイプの予備操作において、特に有利に利用されるものである。さらに本発明の装置は、非織物原料の分野における任意性質のあらゆる種類の繊維の予備操作においても同様に利用され得ることに留意すべきである。

4図面の簡単な説明

第1図は本発明の装置の略解側面図にして、

針金1の両端における定着は、ばね6のような弾性的手段を介して行なわれることもある。

この装置の作用は次のようなものである。

電動機または他の駆動装置により車輪4が回転されている間に、カム4'は該針金1を下方に、互いにからまっている繊維塊Fの内部に押しつける。従って、針金1は、たわみを受けてローラ5により張力下に置かれる。該ローラが針金1を解放する瞬間に、該針金は、点AおよびBの間に包含される振動区域内に残存する多重振動を通過してその原位置に戻る。

かくて、針金1の繊維塊F内における振動および振動の連続的くり返しにより、繊維は漸進的に解放されて互いに分離され、該振動区域から個別に投げ出され、例えば周知の空気運搬により吸込まれて運ばれる。

さらに、本発明の装置においては、あらゆる種類の長さの繊維または混合された繊維の開繊および個別分離が、あらかじめその構成素子に何等の調整を施す必要もなく、行なわれる特徴がある。

第2図はその平面図である。

1：針金または線条、2、3：支持部、4：車輪、4'：カム、5：ローラ、6：ばね、F：繊維塊

特許出願人 ベルナール・ルドロフ

代理人弁理士 山田健吉

